



第82回 ふれ愛シネサロン

みんなで考えよう
平和と人権
「人権文化をすすめる県民運動」



1945年沖縄一終戦を知らずに2年間、
ガジュマルの木の上で生き抜いた日本兵の実話に基づく物語。

木の上の軍隊

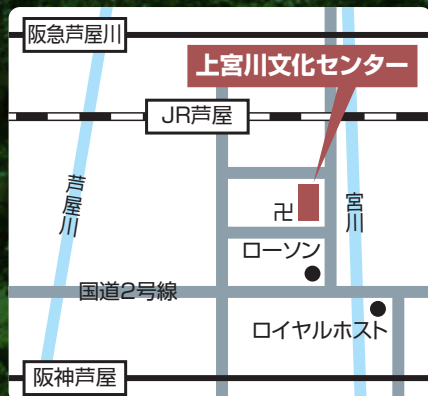
©2025 「木の上の軍隊」製作委員会

令和8年 **7月4日(土)**

〈2回上映・30分前開場〉

①10:00~12:10 ②13:30~15:40

(バリアフリー字幕あり)



専用申込
フォーム



申込締切
6月26日(金)まで

入場
無料

参加には
申込が
必要です

託児あり
申込が
必要です

会場 **上宮川文化センター 3階ホール**

芦屋市上宮川町10番5号
(JR芦屋駅・阪急バス「上宮川橋」より徒歩5分)
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

定員 **各回150人 [先着]**

申込方法 **6月1日(月)午前9時より受付開始**
専用の「申込フォーム」よりお申込みください。
申込締切：6月26日(金)

託児無料 **定員各回3人(6か月~未就学児)**
申込締切：6月26日(金)

主催 **芦屋市/芦屋市教育委員会**

問い合わせ 芦屋市人権・男女共生課 TEL.0797-38-2055

「あの日、俺たちは、この島に残された2人だけの軍隊だった。」

太平洋戦争末期、戦況が悪化の一途を辿る1945年。飛行場の占領を狙い、沖縄県伊江島に米軍が侵攻。激しい攻防戦の末に、島は壊滅的な状況に陥っていた。宮崎から派兵された少尉・山下一雄（堤真一）と沖縄出身の新兵・安慶名セイジュン（山田裕貴）は、敵の銃撃に追い詰められ、大きなガジュマルの木の上に身を潜める。仲間の死体は増え続け、圧倒的な戦力の差を目の当たりにした山下は、援軍が来るまでその場で待機することを決断する。戦闘経験が豊富で国家を背負う厳格な上官・山下と、島から出たことがなくどこか呑気な新兵・安慶名は、話が噛み合わないながらも、二人きりでじっと恐怖と飢えに耐え忍んでいた。やがて戦争は日本の敗戦をもって終結するが、そのことを知る術もない二人の“孤独な戦争”は続いていく。極限の樹上生活の中で、彼らが必死に戦い続けたものとは――。

出演：堤真一 山田裕貴

監督・脚本：平一紘

原作：「木の上の軍隊」（株式会社こまつ座・原案井上ひさし）

企画：横澤匡広 プロデューサー：横澤匡広 小西啓介 井上麻矢 制作プロデューサー：大城賢吾

企画製作プロダクション：エコーズ 企画協力：こまつ座 制作プロダクション：キリシマー九四五 PROJECT9

後援：沖縄県 特別協力：伊江村

製作幹事・配給：ハピネットファントム・スタジオ ©2025「木の上の軍隊」製作委員会

公式サイト：<https://happinet-phantom.com/kinouenoguntai/> 公式X(旧Twitter)：@kinoue_guntai